

令和5年度 第3回 学校運営協議会 議事録

令和6年3月12日（火）15:30～17:00

学校運営協議会委員

平野 周二（横浜市西区第5地区自治会連合会 会長） 欠席
小島 由美（横浜平沼高等学校 校長）
池 俊介（早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授） 欠席
加藤 善浩（横浜西口エリアマネジメント事務局）
ジギャン クマル タパ（かながわ国際交流財団 グローバル人材育成グループ）
遠山 満（横浜市立岡野中学校 校長） 欠席
脇本 健弘（横浜国立大学 教職員大学院 准教授）
皆藤 慎一（横浜平沼高等学校 同窓会真澄会 会長）
服部 悟宣（横浜平沼高等学校 PTA会長）

本校職員

川上 司（副校長）	河邊 由美子（教頭）・司会
島崎 理恵子（事務長）	富田 泰夫（教務・情報グループGL(グループリーダー)）
日野 裕紀（総務グループGL）	岡田 真弥（研究開発グループGL）
一柳 浩一（進路グループGL）	長妻 令子（生徒会グループGL）
馬上 真史（生活グループGL）	渡辺 愛子（総務グループ）・記録

○ 開会（河邊）

○ 学校運営協議会・評価部会

1 校長挨拶（第2回学校運営協議会以降の教育活動について）

12月16日に、かながわ国際交流財団主催の青少年国際交流セミナー2023「身近な多様性！五感を使って体験しよう」に本校生徒が参加した。このコミュニティスクールで紹介いただき、実現したものであり、大変ありがたい。また部活動ではダンス部が県優勝し、弓道部、ハンドボール部がそれぞれ、東日本大会、全国大会に出場を決めている。公立高校として誇りに思っている。学校行事では3月1日に卒業式を行った。列席していただいた委員の皆様にお礼を申し上げる。3月13日は入学予定者説明会の予定だ。

2 報告、連絡事項

(1) 令和6年度入学者選抜結果

令和5年度の400人から433人に受験者が増加し、319名の合格者を出した。今回から願書がオンライン送付となり、志願変更も中学生が学校に来ることがなくなった。面接がなくなり、学力検査と特色検査で可否を決めた。

3 【協議】令和5年度学校目標校内評価について

(1) グループリーダー等からの説明

ア 教育課程・学習指導

新カリキュラムによる授業の充実を図った。単元毎に指導と評価の計画を示すことで、生徒は見通しをもって学習ができる。新しい学校支援システムを本格稼働させ、欠時ミス防止を進めた。また新システムでは朝の欠席連絡の効率化を図り、仕事のスリム化を進めた。(富田)

一人一台端末については、活用方法の共有化は教科内に限られ、今後は教科間で横断的な共有が必要だ。また、資料にも加えたが、生徒による授業評価の結果を生かした授業改善を今後も進める。別資料として魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート結果を入れたが、3年生の学校評価が格段に良くなった。学校行事の再開など学校生活がコロナ以前に戻ったことが理由と考えられる。

イ 生徒指導・支援

生徒主体で生徒のやりたいことを実行させている。能力を引き出すのは大変だがだいぶできてきた。コミュニケーション力の不足が認められ、学年を越えたコミュニケーションが取れるよう生徒の力を伸ばさせたい。来年度の文化祭では調理を復活させる予定だ。(長妻)

マスクを着用する生徒が減っているなど見られるが、大流行はなく、生徒は個々に判断して行動しているようだ。スクールカウンセラーの来校回数が増加し、相談が取れない状況はだいぶ緩和された。それでもまだ足りていない感じであり、生徒の悩みを吸いあげる機会を充実させる必要がある。スクールソーシャルワーカーについては広報不足で今のところ需要が感じられないが、潜在需要の掘り起こしは必要だ。(馬上)

ウ 進路指導・支援

総合型入試の合格者が増えてきているのが今年の一つの特徴だ。また、現在集計中の詳しい資料は次回の学校運営協議会でお見せするが、国公立、早慶の合格者も出ている。3年生の1月に受験前対策として、分離別選択授業を設置したところ、講評だった。加えて、総合型の増加を鑑みて、来年度も小論文対策を充実させたい。また1、2年生に対してはこの3月に進路講演会や卒業生の話を聞く会を開いて、刺激を与えている。(一柳)

エ 地域等との協働

P T A活動については、新型コロナの5類移行でポストコロナの新しい活動の型を手探りで考えている。みんなが無理のない形で、やってよかったと思える活動を進めたい。また、活動の再開や好成績を上げる部活動が増え、私費の執行に無理、偏りが生まれている。P T A予算の使い方についても今後の検討事項となる。(日野)

地位貢献活動については、今年度、地域からたくさんの協力が得られ、多岐にわたる活動で生徒にとっても満足度の高い内容となった。今後もしっかり連携して、充実

化を図りたい。(長妻)

オ 学校管理・学校運営

防災関係では、校内のマニュアル整備と学年別の防災教育は行えた。現状では地域との連携が不足している。横浜市などとの話し合いがこれからの課題となろう。(馬上)

(2) 質疑

◎ジギャン委員

「身近な多様性！五感を使って体験しよう」を企画した。本校生徒の参加もあった。グローバル化の進展に対する若者の意見が聞けて良かった。震災のあった能登に入って支援した。外国人が入ると好意的に対応されるようだが、それは思い込みでもある。もっと若者を巻き込み、柔軟に進める必要があると感じた。今後、かながわ国際交流財団では湘南国際村センターで青少年国際セミナーなどを予定しているが、近隣の横浜駅西口で高校生が参加できる英語村などをやれば良いと考えている。

◎服部委員

出欠席の管理をメールで行うということだが、すごくやりやすくていい。でもスマホを持っていない家庭はないのかが気がかりだ。一人一台端末については、3年生の保護者のため、直接の成果はわからない。進路についてだが、子どもは自分で勉強のスケジュールを立て、自習室や図書館で取り組んでいた。共通テストリサーチとその後の業者アドバイスはプロが関わってくれてありがたかったが、もう少し子どもにも考えさせる時間があれば、バタバタせずに済んだと思う。PTA会費については、横浜中地区のPTA役員の会合でも使い方が話題になった。バス旅行などを縮小して、生徒に還元したほうが良いのではという意見があった。来年度に向けて予算の見直しは今が良い時期と考える。

◎皆藤委員

一人一台端末については、導入、実施のスピードがとても早く、うれしく思っている。本校に出向くたび、生徒から気持ちよく挨拶の声を掛けられる。生徒が中心となって取り組む行事はいい。来年度は各行事の観客がさらに増えることだろう。再来年度の125周年の企画にも生徒が参加できればよい。生徒の支援についてだが、同窓会では一人10万円、10人の給付型の奨学金を始めた。今後は125周年に向けて奨学金基金を設けて卒業生から寄付を募る予定だ。

◎加藤委員

3月7日実施の学生が地域の活動を報告する横浜アクションアワードに携わったが、本校生徒2名も他の高校生とともに立派に意見を述べていた。周りは大学生ばかりなので応援しようという雰囲気もあり、発表の場が大事であると思つづく。地域等との協働についてだが、横浜西口エリアの改善、活用では平沼高校生が大いに期待されている。イオンの広場の命名も本校の生徒が行った。整っているみなとみらいと比べ、西口エリアが良い方向に変わるには人の力、ソフトの力が大事だ。来年度はもっとい

いろいろやってみたいし、要望があれば応えたい。

4 その他

来年度の委員委嘱、学校運営協議会の予定について（川上）

○ その他の部会（扱ったテーマ、委員から出た意見等の概要）

1 地域連携部会

地域の活動場所について

- ・交流の場が必要だが、借りるには有料のところも多い。
- ・ビブレ前の橋上は利用できるが、二級河川なので県や市の許可が必要な場合も。

生徒の活動について

- ・発表の機会、交流の機会がともに大事だ。
- ・地域の問題点を共有し合う場が必要。
- ・「西口を考える会ワークショップ」では河川改善等を検討してきた。
- ・目的を明確にしてイベントを企画する。

2 学力向上部会・グローバル教育推進部会

総合型選抜入試について

- ・今後も増えることが予想される。
- ・学科に多少は関係する内容の探究活動、あるいは類似の活動を行っているといい。
- ・自分で考え、自分で探究し、自分なりに結論を考えることが大切である。

グローバル関連イベントについて

- ・本校生徒の反応が良くなっている。
- ・外国人コミュニティについて学ぶことも有用。
- ・英語以外のいろいろな国の人との交流し、接点を増やすべき。
- ・ちょっとしたイベントで十分。
- ・他校の生徒や保護者、西口エリアマネジメントとの協働はどうか。

○閉会（河邊）